

# 日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト

## トゥブ県再講習会

団 長：根來 信也（国際部）  
横田 良介（宮城県柔道整復師会）  
五反田重夫（兵庫県柔道整復師会）  
河村 亜希（国際部）

指導者候補：エンフタイワン・トゥブシンバヤル  
バトムク・アルタンエルデネ  
ダシュラウダン・ボロルトウーヤ  
ムンフバートル・ボロルチメグ



写真1 派遣者、指導者候補、ドライバー

### 日 程

2月17日：出発 根來 五反田 横田 河村  
到着後ミーティング

2月18日：トゥブ県へ移動

午前：モンゴル日本人材開発センターでの打ち合わせ

午後：トゥブ県へ出発

トゥブ県ゾーンモド市保健所での打ち合わせ

指導者候補とのミーティング



写真2 保健所での打ち合わせ



写真3 指導者候補とのミーティング

2月19日：講義第1日

午前：開講式

(1) 挨拶

- ①モンゴル国立医科学大学附属看護学校 バイガル先生
- ②モンゴル国立医科学大学附属看護学校 オトンガア学長
- ③トゥブ県ゾーンモド市保健所 アルタントゥール所長

(2) インタビュー調査

(3) TV取材 (TBS)

講義－基本包帯法実技復習 (トゥブシン・根來・横田・五反田・河村)

午後：講義－肩関節脱臼理論・実技復習 (河村・根來・横田・五反田)

試験－筆記試験



写真4 アルタントゥール保健所長挨拶



写真5 肩関節脱臼実技 (河村)

2月20日：講義第2日

午前：前日の講義・筆記試験の振り返り

講義－鎖骨骨折理論・実技 (五反田・根來・横田・河村)

午後：講義－鎖骨骨折実技 (五反田・根來・横田・河村)

講義－肋骨骨折理論 (横田・根來・五反田・河村)

試験－筆記試験

トゥブ県ゾーンモド青年海外協力隊 (2名) との情報・意見交換会



写真6 鎖骨骨折実技



写真7 海外青年協力隊との情報交換会

2月21日：講義第3日

午前：前日の講義・筆記試験の振り返り

講義－肋骨骨折実技 (横田・根來・五反田・河村)

講義－下腿骨骨幹部骨折理論 (根來・横田・五反田・河村)

午後：講義－下腿骨骨幹部骨折実技 (根來・横田・五反田・河村)

試験－筆記試験





写真8 肋骨骨折実技（横田）



写真9 下腿骨骨幹部骨折実技（根来）

## 2月22日：試験日

午前：前日の講義・筆記試験の振り返り  
試験－実技試験

午後：アンケート  
インタビュー調査  
閉講式

- (1) 成績優秀者発表、記念品贈呈
- (2) 総評
- (3) 挨拶、修了証贈呈

トゥブ県ゾーンモド市保健所 イストウヤ 研修担当

モンゴル国立医科学大学附属看護学校 教師 デルゲルマ先生



写真10 実技試験



写真11 成績優秀者



写真12 感謝状授与



写真13 受講生一同

2月23日：市民公開講座

司会 河村 通訳 トゥブシン

9：30 受付 10：00 開始

- (1) 挨拶 トゥブ県ゾーンモド市保健所 インストゥヤ研修担当
- (2) 講師、アシスタント紹介
- (3) 趣旨説明 国際部 根來 信也
- (4) 怪我の応急処置について説明、実技
- (5) 質疑応答

ウランバートルへ移動

出発 金井



写真 14 ペットボトルを用いての固定



写真 15 三角巾実技

JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクトとして、トゥブ県のバグ医師を中心に再講習会を実施した。初回受講生は 13 名、再受講生は 32 名、計 45 名の受講生に講義を実施した。尚、受講生 45 名中、9 名の大医師、既に大学で講義を受講していた者は 5 名であった。

今回の講義では、初回受講生と再受講生で、前回の派遣時の講義内容に対する実技指導方法について配慮を行った。

講義終了後の筆記試験結果ならびに当日の講義の振り返り、気づいた点を指導者候補とともにディスカッションすることにより、指導者候補の講義に対する理解度ならびに指導方法の向上を目的とした。その結果を翌日の復習に反映し、受講生に対する講義理解度の向上に努めた。

今後、モンゴル国における柔道整復術普及のためには、実際の症例・処置に対してバグ医師間ならびにカウンターパートと共有することが重要で、再受講性を中心に外傷治療経験のインタビュー形式にて実施した。その情報をもとに、閉講式前にディスカッションを行った。その際、看護学校での受講経験者が積極的に発言し、実際の症例経験および課題を把握することができた。

また、夕食先のレストランで、青年海外協力隊の、保健師の男性と日本語学校勤務の女性に出会い、情報意見交換の場を設けることができ、トゥブ県での医療・生活状況に対する情報を得ることができた。

一般市民公開セミナーでは、約 30 名で幅広い年代の参加があり、怪我の応急処置についての三角巾を用いた簡単な固定の実技も含めて実施し、講演終了後に活発な質問があり、怪我の応急処置に対する重要性を啓発することができた。

本プロジェクトも折り返し地点を過ぎ、モンゴル国各アイマグでの柔道整復術の普及度の更なる把握が重要である。